



コミュニケーション ①



【 相手 → 本人 】

※指示・許可・禁止、ルールの理解について書きます

- 話かけるとき、注意をひくときは「こだいちゃん！」とはっきりした声で名前を呼んでから、指示をしています。
- 【 具体的な指示の例 】
 - × 「ボールをかたづけね」
 - 「ボールを集めてカゴに入れてね」
 - × 「もうちょっとで遊びはおしまいだよ」
 - 「時計の長い針が3のところにきたら、おかたづけします」
- ひらがな、カタカナは読めますが、文章全体の意味を理解するのは苦手です。単語と動詞でわかりやすく伝えています。
 - × 「今日は晴れだからお外が良い？」
 - 「ボールで遊ぶ？トランプする？」
- してはいけないことは、はっきり「ダメ！」と言って、手で「×」を示すとわかりやすいです。

⑫ - ()

(やまおり)



コミュニケーション ②



【 本人 → 相手 】

※要求・選択・拒否の時、それぞれどんな様子を具体的に書いておくと対応してもらいやすくなります。

- 2～3語文程度(例「先生、トイレ行く」)の要求や、拒否(例「いや、しない」)ができます。
- 選択をさせるときは、言葉だけで言うよりも絵に書いて「どっち？」と聞くと本人に伝わりやすいです。
- 欲しいものの名前がわからないときは、大人の手をとって、指し示そうとしたり、連れて行こうとしたりします。
- 好きな話題は「ウルトラマン」「電車」です。会話として続きませんが本人の興味をひくことができます。

※コミュニケーションの手段は、言語・サイン・クレヨン・絵カード・写真・機器を使うなど、何を用いているのかを具体例を交えて記入しておくとうわかりやすくなります。

⑬ - ()



こだわりやパニック



【きっかけ】

- ①掃除機の音、工事現場、強い光、炎
- ②今、熱中していることを止められる

【様子】

- ①耳をふさいで「アー」と大きな声を出しながら走って逃げようとする。
- ②床に寝転んでのけぞり、声をあげて泣く。

【対応】

- ①手をつないで「大丈夫」と声をかけをしながら、手をつないで静かな場所へ連れて行きます。事前に「○○の音がするよ」と予告しておくとう大丈夫になってきました。
- ②5分くらいで泣き止みます。無理に起こそうとせず、落ち着いてから好みの活動に誘っています。

※「予防」のためにどうすればよいか、「おこってしまったとき」はどうすればよいかを具体的に書きましょう。

※1枚で足りない場合は、この用紙を足していきましょう。

⑭ - ()

(やまおり)



着 替 え



着 る (配慮していること)

- 上着は前を下向きに、ズボンは前を上向きに並べると自分で着ることができます。
- 靴下は自分ではきませんが、かかとが上にきていたら回すのを手伝っています。
- 靴も左右が反対になることがあるので、その時は声かけをしています。

脱 ぐ (配慮していること)

- 脱いだ服と新しい服がわからなくなることがあるので、分けて置くように声かけが必要ですよ。

プール・シャワー・入浴 (配慮していること)

- シャワーはひとりで操作できないので、大人が操作してやってください。
- シャンプー、リンスはたくさん出してしまうので、大人が適量を取って手にのせてやってください。

⑮ - ()